

# 今井城学園通信

社会福祉法人 天使園

児童養護施設  
今井城学園

青梅市今井 2-1207-8

発行日 2014年2月

第6号

## 園長あいさつ

小田川広明

少し遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。旧年中は、いろいろとお世話になりました。本年も宜しくお願いいたします。

さて、昨年は子どもたちの入所・退所が多い一年であったと思います。ここ数年都内児童相談所の一時保護所は100%を超える保護率となっています。子どもたちが保護され施設入所となる理由は様々ですが、一番多いのは被虐待のケースです。その中には緊急性の高いものも少なくありません。このような状況ですので、入所に関する依頼は1年を通して入ってきます。



本学園では、昨年度末には卒園や家庭復帰で数名の子どもたちが退所しました。その後、4月から12月までに10名の子どもたちが入所し、7名の子どもたちが家庭復帰等で退所しました。以前の養護施設は入所すると高校卒業まで在園する子どもたちが多く居ましたが、現在は児童相談所、ファミリーソーシャル及び市区町村の子ども家庭支援センターなどと連携し、家庭調整を行っています。子どもたちが家庭で生活できる様に家族の方々へ様々なアプローチを行って居ます。

最後に12月23日には、子どもたちや職員が一緒になって作り上げた本学園のクリスマス会が行われました。ご家族や地域の方々など多くの皆様にご来園を賜り、ありがとうございます。

とても楽しいクリスマス会ができたと感じています。気の早い話ですが、平成26年も12月23日に行いますので、皆様でご来園ください。

## 学園紹介シリーズ

No.6

今回は、今井城学園の運営方針について、少し書かせていただこうと思います。本学園では、次の5項目を運営方針としています。

### 1、子どもたちの最善の利益、権利擁護

「子どもたちの左膳の利益、権利擁護とは何かを常に考えられる集団作り」

### 2、援助論の展開

「職員間で援助論を討議し、融合できる集団作り」

### 3、職員参加の施設運営

「トップダウンだけでなく、園長、事務長、主任、副主任、職員それぞれが施設運営は自分も担っているという意識を持ち、考え、作り上げていく集団作り」

### 4、組織・援助の透明性・情報の共有化

「常にチームで働いている事を意識し、「報・連・相」を確実にできる集団作り」

### 5、子どもの視点に立ったルール作り

「ルールの為のルールでは無く、子どもたち現場の職員に本当に必要とされるルールとは何かを考え、作り上げていく集団作り」

次号では、上記の運営方針の中身に触れたいと思います。



今からさかのぼること8年前、当時、私は高校2年生の女の子を担当していました。反抗期真っ盛りの彼女は、日を追う毎に学園に帰園してくる時間が遅くなっていきました。学園内で生活の楽しみがあれば、彼女も学校から真っ直ぐ帰ってくるのではないかと考えに考えました。彼女は高校の部活動でダンス部に所属しており、熱心に活動を行っていました。そこで、「職員と一緒にダンスをしてクリスマス会で発表をしない？」と話しを持ちかけたことがダンス部創立のきっかけです。言ってみれば、ダンス経験はまるで無し、学生の頃から運動神経ゼロの私です。とにかく必死に練習を行い、何とかクリスマス会に間に合わせました。彼女と一緒にダンスを踊れた事は私の中での素敵な思い出となっています。そんな私の踊る姿に憧れてか、翌年以降「ダンスをしたい。」と希望する女の子が殺到しました。(高校生の彼女に憧れて・・・が本当です。)指導も出来ない名ばかりの顧問です。さも「踊れます。」という素振りをしながら早いもので8年が経ちました。

子ども達は私の踊る姿を見て何かを薄々と感じているようですが、誰一人何も私に言ってくる子はいません。優しい子ばかりです。しかし、踊りに正解や答えはありません。一人でも多くの子が「楽しい」と感じてくれれば、今井城学園ダンス部としての活動は100点満点だと思っています。今後も子ども達の笑顔を決やさないよう、顧問として老体にムチを打ちながら、AKBや、ももクロ等、アイドルダンスを鏡の前で踊り続けます。

もしかしたら、子ども達の笑顔は苦笑いなのかもしれません・・・。



## 職員リレーコラム (.) 職員自己紹介 その

はじめまして。グループホーム (GH) 「いぶき」で児童指導員として働かせて頂いている、渡邊治奈と申します。「いぶき」には現在、小学生2名、高校生1名の男の子と中学生1名、高校生2名の女の子、職員3名が生活しています。GHでは子どもと一緒に食材の買い物に出掛けたり、料理をしたりすることがあり、それが私にとって大切な時間になっています。今年度は『子どもたちに生き物を育てる大切さを教えたい』という思いからプランターで野菜作りを行いました。野菜を育てる経験がないため、最初は苦戦している様子もみられましたが、水やりを毎日欠かさず行ってくれたのでたくさん収穫する事が出来ました。今井城学園の職員になり4年が経とうとしています。子どもたちに教わる事も多いので、これからも子どもたちと楽しく生活しながら一緒に成長していければと思っています。



はじめまして。本園3階で児童指導員として働かせて頂いている出雲あすかと申します。現在、本園3階には男子9名、女子9名の子ども達が生活しています。職員として3年目ですが、今やっと子ども達ひとりひとりと向き合っ日々過ごす事が出来るようになってきました。一緒に過ごす中で、子ども達の素直な言葉や行動に職員として大人としてどうあるべきか教えてもらっていると感じています。グループホームに比べ、子ども達の人数が多い分、時には喧嘩し、時には助け合いながら成長していく子ども達を見る事に、一番の嬉しさを感じています。私は子ども達と関わる事以外に、青梅第三中学校のPTA活動に携わらせて頂いています。地域の方々、学校の教職員の方々に関わる中で私と同年代の人達には経験できない事を経験させて頂き、良い学びの機会を貰っています。正直、お母様方と話をしている時間が仕事の中の息抜きの時間になっており、楽しさを感じています！自分が関わらせて頂く中で、広く地域の方々に今井城学園を知って頂けたら良いと思っています。三中で私を見かけた際は声をかけて貰えたら嬉しいです。今後とも今井城学園の子ども達、職員をよろしくお願い致します。



# ほっと・ファミリー

ファミリー・ソーシャル・ワーカー 吉澤恵子

連載6回目。今回は施設における家庭支援相談員（ファミリー・ソーシャル・ワーカー）の取り組み内容について紹介したいと思います。

- ① 童相談所や家庭支援センター・学校・病院・保健所・市役所などの関係機関との連絡・報告などの窓口になること。
- ②子どもが親と面会や外泊を行った時に、父母・家族と話をして次回の予定や行事の案内などを伝えながら、家庭内での父母の様子や家庭環境の状況把握に努めること。
- ③保護者と子どもという両者の間に位置して、状況を常に把握し、情報の共有化と目的設定に向けた取り組みを行うこと。
- ④特に児童相談所との連携の中では、保護者の最新の状況と子どもの状況を常に把握して、情報を速やかに伝え連携が取れる様に図ること。
- ⑤子どもにとっても、親にとっても、最も良いタイミングで家庭復帰が出来るように取り組むこと。
- ⑥子どもとケアワーカーそれぞれの相談に乗り、子どもとケアワーカーとの架け橋となること。
- ⑦子どもの社会的自立に向けて、自立支援コーディネーターと連携して持ちうる資源を提供し自立に導くこと。

今後も、父母（家庭）・施設・児童相談所・他機関といった連携の中核として、施設における家庭支援相談員（ファミリー・ソーシャル・ワーカー）の役割には、大きな責任と期待がかかっていると云えます。



## こころの窓

心理士 長嶋 彩

前回は学園内心理室での支援内容についてご紹介させて頂きましたが、今回は心理士が日常場面でのどのような活動を行っているのかの一部をお話しさせて頂こうと思います。よく心理士は「話を聞いているだけ」「子どもと遊んでいるだけで楽そう」などといった受け身の印象を持たれることがあります。確かに心理士は面接にいて相談者を待っているというイメージが強いのではないのでしょうか。しかし現在では、児童養護施設に限らず、都道府県に配置されているスクールカウンセラーなどといった各団体の一職員として配属されている心理士は、従来の受け身的な姿勢で相談者を待っているのではなく、心理士側から所属する職員・児童等に積極的にアプローチしていく姿勢が求められています。その理由としては心理士が設置された当時、相談できる環境は整っていたとしても「心理室」というと格式高いイメージがあり、また関係職員にも心理士の役割が理解されにくく、実際に相談事例があったとしても双方からの理解が乏しかったため、うまく機能しなかったからとも言われています。

実際、私の施設内における心理療法以外の活動としては、学園内の行事に参加させていただいています。昨年度末は学園のクリスマス会に参加し、新人職員として劇の出し物にも出させて頂いたのですが、それ以降関わる時間が少ない子どもたちから劇の役柄を話のタネにして話しかけてくれたりと距離が縮まった印象がありました。他の行事でも一緒に楽しむという経験をするだけで心理士側は子ども達の普段見られない一面を見ることが出来、一方で子どもたちは心理士との関わる時間を設けられるので「心理士って言っても普通の大人」などと身近に感じてもらえたらいいなと思っています。また、学園内行事以外では、時折子ども達の学校公開にも参加させていただく機会があります。そこでは授業で一生懸命手を挙げて発表する姿など、学園では見ることが出来ない子ども達の姿を目にすることで、日々子どもたちの新たな一面、子どもが持つ力を発見することが出来ます。このような日常の時間を共に過ごす中で個別に関わっていない子ども達とも関わりを持ち、気軽に相談出来るような関係作りを毎日続けること、どんな小さな関わりからでも子どもの良いところ探しをすること、それらの情報を踏まえ生活場面から心理学的視点で支援すること、これも心理士の大切な仕事です。

# レッツ・クッキング

栄養士 原口康子

「魚料理」というと子どもには敬遠されがち。からだに良いのは分かっているけど、魚料理は苦手という方も多いのではないのでしょうか？調味料をのせて、オーブンやトースターで焼くだけ。手軽に出来る魚料理を今夜にでも作ってみませんか？使用するお魚は‘生鮭(サーモン)’。スーパーで比較的多く目にする魚です。鮭には、アスタキサンチンという赤い色素があり、私たちの体の老化やガンの引き金となる活性酸素から体を守ってくれます。また、風邪に対する抵抗力やカルシウムの吸収を助けてくれるビタミン類が豊富で、是非食べてもらいたい食品の一つです。

【鮭の味噌マヨネーズ焼き】 4人分

〈 材 料 〉

生鮭(サーモン) 4切れ  
塩 適量 ①  
こしょう 適量 ①  
レモン汁 小さじ2杯 ①  
味噌 小さじ2杯 ②  
マヨネーズ 大さじ3杯弱 ②  
青のり 適量 ③

〈 作り方 〉

A: 鮭に①をふりかける。  
B: ②を混ぜる。  
C: AにBをのせ、オーブン又はトースターで焼く。  
D: 仕上げに青のりをふる。  
※鮭に火が通る前に味噌マヨが焦げてきたらアルミホイルやクッキングシートをかぶせる



## 人はなぜ学ぼうとするのか

学習指導員 藤野哲夫

かけ算の九九を私たちは機械的に暗記するものだと思っているかもしれませんが、しかし、 $3 \times 3 = 9$ は、覚え方は違っているとしても世界のどこでも同じです。つまり、真理です。私たちにはこの真理を求める心が、生まれつき内蔵されているのではないかと思います。そうでなければ、中年の受刑者が刑務所内の中学校に自ら望んで入学したり、高齢の人が識字学級や夜間中学で読み書きを学ぶことを説明できないと思うのです。でも、勉強嫌いの人が少なからずいることも事実です。これは私たちの学習能力（真理を理解する力）がもともと完全なものではないためと考えられます。では私たちは自分に限界があることにあきらめなければいけないのでしょうか。

「狼に育てられた少女」が想起されます。適切な援助がなければ、私たちに生まれながらビルト・インされた真理探求心は開花しません。しかし、よい手助けがあれば、私たちの学習能力は少しずつであっても、限界を突破し、無限に伸びていく可能性があると考えられると思います。ここに学習指導員の役割があると思っています。大変重要な意味を持つ仕事で、重い責任があると考えざるをえません。ところが学習指導員自体が完全な者ではありません。しかし、自分も少しは役に立つかもしれないという希望を持って、子どもたちと接していきたいと思っています。

**編集後記** おかげさまで「今井城学園通信」第6号を発行することができました。この通信を通じて、今井城学園を地域の皆様に広く知っていただき、職員の持つ専門知識が皆さまの生活に少しでもお役に立てればと願っています。記事の内容に関して、ご感想、ご質問、ご要望等がございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。編集委員一同お待ちしております。  
今井城学園 電話 0428-31-2277 e-メール info@imaijyo.or.jp  
ホームページ <http://www.imaijyo.or.jp>